開校50周年記念式典特集　50ème anniversaire, depuis1973

日仏文化学院

パリ日本人学校

「あ・な・た」を大切にする 心のふるさとパリ日

校　訓

明るく
仲よく
たくましく

令和5年度 学校だより
第8号 10月30日発行

【式辞】

日仏文化学院パリ日本人学校 校長 伊藤 博

ここフランスでも、秋が深まる季節となりました。本日は開校50周年記念式典にあたり、駐フランス日本国特命全権大使下川眞樹太様、モンティニー市長ロラン=メルケル様、本校理事長西澤宏章様をはじめ、多くのご来賓や保護者の皆様のご臨席を賜り、このように盛大にお祝いできますことを、教職員を代表して心から御礼申し上げます。

さて、本校は1973年（昭和48年）10 月1日、ヨーロッパで3番目の日本人学校として産声を上げました。当時の校舎はエッフェル塔を望むトロカデロ地区にあり、それまで日本大使館が使っていた建物を利用し、小学部88名、中学部13名でスタートしました。その後、日本の経済成長に伴って、日本人学校のニーズはますます高まり、トロカデロ校舎には入りきれなくなり、1984年（昭和59年）に中学部をシュレーヌの校舎に移転しました。それでも入学希望者は増加の一途をたどり、元号が平成となった1989年には、小学部だけで350名近い人数となり、入学者を抽選で決めなければならないほどでした。

しかも、トロカデロ校舎では、小さな中庭で休み時間に遊ぶ子供たちの声がうるさいと、上の階に住む方々からたびたび抗議の電話が鳴ったり、窓から生ゴミが投げられたりすることもありました。そんな子供たちに、のびのびとした教育を受けさせたい、という強い願いから、当時の文部省や外務省をはじめ、在仏日本大使館、在仏日本商工会議所、在仏日本人会、そして親師会や保護者地域の皆様方の多大なご協力により、現在の広々としたサンカンタン校舎が建設され、1990年（平成2年）4月から正式に移転しました。

本校は開校以来、目指す子ども像を「明るく・仲よく・たくましく」とし、頭文字を取って「あなた」を大切にする「心のふるさと“パリ日”」を合言葉に、温かい学校づくりをしてきました。また、現在は「グローバル人材の育成を目指した教育の実現」をモットーに、教職員一丸となってまさに「ワンチーム」で取り組んでおります。50年を経た今後は、本校の将来像をさらに明確にし「選ばれる日本人学校」として「魅力ある学校づくり」を目指す所存でございます。

このたびの50周年記念事業実施にあたっては、コロナ禍による経済の混乱や円安傾向が加速する中にあって、多くの法人様、個人様からご寄付を賜り、記念行事がつつがなく実施できますことに感謝を申し上げます。記念事業の一つ、中庭の日本庭園整備では、昨年度の中学部生徒によるデザインコンクールを実施し、優秀賞に選ばれたアイディアを活かした庭造りを行いました。また、この後歌われる全校の校歌は、これまで斉唱だけだったものを、本校卒業生の方に合唱版に編曲していただき、この式典が初演となります。この他にも、本日と明日、日本人会アーティストクラブの皆様が1階ホールで作品即売会を実施したり、明日の「パリ日祭」では多くの協賛企業様とご家庭から商品をご提供いただいたりしました。いずれも収益が学校へ寄付されることに、心から感謝を申し上げます。本校は今日まで50年間、皆様のご協力の下で、輝かしい歴史を築きあげてきました。これからの変化の激しい時代の中にあって、さらに本校を発展させ、60年、70年、100 年とつ

なげていく必要があると考えております。それには、今後とも皆様方のご理解とご協力が不可欠になると存じます。

結びにあたり、本日ご臨席のご来賓の皆様をはじめ、関係の皆様方に、これまでの御礼を申し上げますとともに、これからの本校に対しまして、一層のご指導とご支援を賜りますよう、心からお願いを申し上げ、式辞といたします。

皆様から心温まるご祝辞をいただきました

【祝辞】 パリ日本人学校の開校50周年を祝して

文部科学大臣　盛山　正仁　様

パリ日本人学校が開校50周年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。パリ日本人学校は、昭和48年に開校されて以来、50年という長い歴史の中で、貴地に在住する日本人の児童生徒の教育に大きく貢献をしてこられました。ここに改めて、日仏文化学院、理事会、教職員や保護者の皆様をはじめとする多くの関係各位のこれまでの御尽力、御協力に対し、深く敬意を表します。

かつて私も子連れでパリに滞在しておりましたが、昨今のグローバル化の進展において、海外に住む日本人の児童生徒に対する教育の確保は極めて重要な課題であり、在外教育施設はその拠点として重要な役割を担っています。昨年6月には「在外教育施設の振興に関する法律」が制定され、海外に住む日本人の児童生徒への教育の振興について、法的位置づけが明確になりました。

また、本年4月には、本法律を踏まえ、「在外教育施設における教育の振興に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」を策定したところであり、文部科学省としても、在外教育施設における国内同等の学びのための環境整備と在外教育施設ならではの教育の充実に、より一層取り組んでまいりたいと考えております。

パリ日本人学校は、世界で活躍するグローバル人材の育成を目的とし、国際バカロレア（IB）の理念に基づいた探究的な学習活動を積極的に展開されています。また、充実した外国語教育の実施、日本文化と現地文化の双方を重視した国際的な教育活動など、正にフランスという環境を活かした、在外教育施設ならではの教育を実践されています。

このような学習環境下で学ばれた児童生徒の皆さんが、これからの国際化時代を生きるグローバル人材の原石として、世界に飛躍されていくことを期待するとともに、日仏文化学院、理事会、教職員や保護者の皆様及び貴地日本人社会が一致協力して、パリ日本人学校での教育の充実に尽力されることを期待しております。

また、明日10月7日に開催される開校50周年記念「パリ日祭」では、児童生徒の皆さんの学習発表や様々な催しが行われると伺っております。児童生徒の皆さんが日々の学習の成果を十分に発揮され、「パリ日祭」が御盛会となることを心からお祈り申し上げます。

最後に、貴校が開校50周年を機に更なる発展を遂げられることを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

※式典では一部を代読させていただきました。

【祝辞】 パリ日本人学校開校 50 周年を祝して

駐フランス日本国特命全権大使　下川　眞樹太　様

メルケルモンティニー市長、西澤理事長をはじめとする日仏文化学院理事会の皆様、パリ日本人学校の伊藤校長先生をはじめとする教職員の皆様、パリ日本人学校がこのたび開校 50 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げたいと思います。まことにおめでとうございます。

このパリ日本人学校は、今から約50年前にトロカデロの地にて開校しました。50年前に、ここパリで日本人学校を創設しようと努力された先人の方々がおられたという事実に感銘を覚えます。パリ日本人学校を作るという決断をなされ、たいへんなご苦労をされた先人の方々に、この創設 50 周年との節目の年、改めて深甚なる敬意を表します。

また、パリ日本人学校は、学校教育法体系に規定する在外教育施設として指定され、今日まで、フランスの地にありながら、日本における教育に準じる教育活動を提供してきました。その間、たくさんの在留邦人の方々や在仏日系企業、フランスの関係者の方々が、素晴らしい学びの場を維持し、これをより良いものにするための積極的な学校運営に尽力してこられました。

パリ日本人学校が、このサンカンタン新校舎に移転したのは、今から33年前のことです。この頃、ヨーロッパでは欧州連合・EUが発足し、単一硬貨・ユーロが導入される等、学校を取り巻く社会も大きく変化し続けています。また、この間、パソコンやインターネットの普及・進歩は著しく、それらは今では私たちの生活に欠かせないものとなっています。日本の教育も、このような国際情勢の変化やデジタル化を踏まえ、学びの内容を拡充させてきており、このパリ日本人学校においても、小学校段階から、英語の授業を行ったり、基本的なパソコンの操作を含む情報教育が行われていたりすることは、ご承知のとおりです。

このサンカンタンにおいて、緑あふれる広々とした環境の中で、のびのびと、そして、それと同時に国際感覚を身に付けることができる教育を受け、多くの卒業生がこの学校から巣立っていきました。日本では決して味わえない、そして、このパリ日本人学校だからこそ得られた経験を生かし、多くの卒業生が世界を舞台に大活躍されています。

3年前の2020年初頭からは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、フランスにおいても各種規制が設けられ、その影響は、パリ日本人学校にもおよび、オンライン授業への切り替えや、多くの制約が生じました。しかし今、世界全体が、約3年間続いた新型コロナウイルスの影響から少しずつ抜け出ようとしています。パリ日本人学校においても、校外宿泊学習や、近隣学校との交流会等が徐々に再開され、本日の式典も、コロナ禍以前と同じ通常の形式で無事に開催を迎えることができました。このように、パリ日本人学校は、刻々と変貌する世界情勢を的確に把握し、その動きに遅れることなく歩みを進めてこられました。また、困難に直面したときは、工夫と協力をもって乗り越えてこられました。その姿勢は、まさにパリ日本人学校が目標とする「明るく　仲よく　たくましく」そのものであると思います。

今後も、60周年、70周年、100周年に向けて、パリ日本人学校が一歩ずつ、力強く歩んでいくことを祈念いたします。また、それに向けて理事会の皆様方、保護者の皆様方のご支援の下、パリ日本人学校が円滑に運営されていかれることを期待いたします。そして、児童・生徒の皆様や保護者の皆様方が安心してパリ日本人学校に通えるよう、在フランス日本国大使館としても、関係の皆様と二人三脚で、支援できることを行い、少しでも良い環境作りに努めて参ります。

この場におられるパリ日本人学校の児童・生徒の皆様が、これからものびのびと学習し、この広い世界に向かって飛び出し、大活躍されることを大いに期待しています。最後に改めて、パリ日本人学校の校長先生をはじめとする教職員の皆様、保護者の皆様、並びに学校運営に携わる関係者の皆様のますますのご活躍、ご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

【祝辞】　　モンティニー市長　ロラン＝メルケル　様

　在フランス日本国大使　下川様、パリ日本人学校理事長　西澤様、伊藤校長先生、教職員、保護者ならびにご来賓の皆様、親愛なる児童生徒の皆さん、 本日こうして皆様とともに、パリ日本人学校創立 50 周年を、モンティニー校舎設立 30 周年と合わせ二重にお祝いできることを大変光栄に思います。

　まず初めにパリ日本人学校とモンティニー市との間で常に保たれてきた質の高い友好関係に対し、感謝の意を表します。長きにわたり、貴校では代々の校長先生が先人を引継ぎ、一方モンティニ市は4人の市長による世代交代を経て今日に至っています。そして私たちの関係は単に永続するに留まらず、お互いがさらに大きな満足感を覚えるものへと発展してきました。モンティニー市は、もはや新しい町ではありません。今では私たちがたった 40 年で一から築いた町の特異な建設行程を知らない子供達もいます。パリ日の存在はこの歴史の内の 30 年を占め、その質の高い教育活動によってモンティニーの名を世界に広めることに貢献してくださっています。

　毎年、親師会の皆様が市長室をご訪問くださり、手ずから福祉のためのご寄付をくださることに対しても、改めてお礼を申し上げます。この行為について、わたくし個人としましても深い感謝の念を抱いていることをお知りおきください。同様に、毎年市役所見学のクラスを市長室にお迎えし、市政について大いなる好奇心と興味を示す子供達にお目にかかることも、私にとっては大きな喜びです。しかも数年来、貴校の児童が見学のしおりを用意した上で地域の歴史 、市の施設や都市計画について学ぶ模範的な学習態度を目の当たりにし、大変誇りに思ってます。

　これからモンティニー市はパリ日の周辺でオリンピック競技を受け入れることにより、新たな展開を見ることとなります。十億の観衆が見守る世界イベントが、国立競輪場と BMX 競技場で繰り広げられます。フランス 3 万 6 千の市町村から選出された 65 のオリンピック会場の一つに数えられることは、もちろん市にとって大きな誇りです。貴校にとっても知名度を上げるチャンスになることと信じます。

　お集りの皆様、お誕生日誠におめでとうございます。50 年もの長きにわたり、この模範的な学校の成功のために貢献された団体・個人すべての方々にお礼申し上げます。

　私たちがこんなにも愛着を感じているオリンピックの町モンティニーの全住民にとって、パリ日本人学校がいつまでも立派な愛される学校であり続けますように。

※式典ではすべて日本語でスピーチしていただきました。

【祝辞】　　パリ日本人学校理事長　　西澤　宏章　様

　ただいまご紹介にあずかりました本校理事長を務めさせていただいております西澤宏章と申します。理事を代表して一言ご挨拶申し上げます。

　はじめに本校に通われる児童生徒の皆さんは素より、下川大使、モンティニー市長、御来賓、保護者の皆様のおかれましてはお忙しい中、本校の 50 周年記念式典にご出席いただきありがとうございます。開校 50 周年を迎えるにあたり、これまで在フランス日本大使館や、日本人会、日本商工会議所など、関係各機関の皆様方の温かいご支援、ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、校長先生をはじめ教職員や親師会役員、保護者の皆様の並々ならぬご尽力の賜物と、心より感謝申し上げます。

　これまでの 50 年につきましては、既に祝辞の中で触れられてますし、この後スライド上映もありますのでここでは割愛させていただきますが、改めて、皆様と本日開校 50 周年記念式典を迎えられることを嬉しくまた誇

りに思います。在校生や保護者、教職員、卒業生や本校関係者、さらには、日本人社会や地域のフランス人社会とともに、この 50 年間の歩みを振り返り、心よりお祝いしたいと思います。そして多くの先人の努力により学校が運営されてきたことに深く感謝し、今後を見据えて本校の益々の発展や、日仏のさらなる交流に向けた機会に繋げていきたいと思っております。

さて、この後お披露目となる中庭の日本庭園風整備は 50 周年記念事業の目玉として、中学生のアイデアによるコンペを経て、また造作にあたっては多くの方のご協力を得て、生まれ変わることとなりました。まさに本校の教育目標である「あ・な・た（明るく、仲よく、たくましく）」を体現するコミュニケーションの場としてみんなに愛されることを期待しております。

これまでも「学校だより」を通して有形無形を問わず、先人が築いた多くの「お宝」が紹介されておりますが、過去の遺産を通して「継承と発展」の歴史が脈々と築かれております。特に、建設から 30 年を経た、ここサンカンタン校舎には、建設に携わられた建築家早間玲子様の「二つの文化の共生と調和、理解と友情の心」の思いが込められ、30 年の月日を重ね、大切な学びの場、友情を育む場、地域社会と触れ合う場として提供されてきたことを誇りに思います。文化の誉れ高いフランスで得た経験や本校での学習、フランス社会との交流が、これからの国際文化社会や情報文化社会の中で必ず役に立つと信じております。今回整備された中庭もきっと新しい「お宝」の一つに加わることでしょう。

先日、室町時代から続く伝統工芸家とお話する機会を得ましたが、「伝統は革新の連続にて創られるもの」と仰っておられました。ともすると伝統を保守的に維持することに目が向かいがちですが、新たにチャレンジし続けていくことが 50 周年を迎えた本校の運営においても、そして本校で学ぶ児童生徒にとっても大切だと考えさせられました。そして、ラグビーワールドカップ、パリオリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博とビッグイベントが毎年続き、日仏の交流が一層飛躍・発展する時期に本校で学び、50 周年をともに迎えられるご縁に感謝しつつ、この貴重な経験を活かして日仏を超えた国際人財へと羽ばたいてほしいと願っております。

最後になりますが、本校で学ぶ児童生徒にとって、安心・安全な環境で教育を受けられることが最重要であることは今後も変わりません。日本の教育水準の確保はもとより、在外教育施設としてのメリットを最大限に享受し、革新的な教育を目指していくためにも充実した教育設備の整備や学習環境の維持・向上は必須と考えます。この度理事会では50周年にあたり、改修・整備・設備充実化などのため、50周年記念事業の一環としてご寄付をお願いし、多くの個人・企業・団体の皆様よりご賛同いただき、ご支援とご協力を賜りましたことをこの場を借りて、厚く御礼申し上げます。

将来の日本や世界を背負い、日仏の文化交流や繁栄を担う本校の児童生徒の皆さんのため、微力ではありますが一人ひとりに寄り添いながら、そして「革新」を積み重ねていけるよう、今後とも一層魅力的な学校づくりに精一杯取り組んでいくことをお約束して、私の祝辞に替えさせていただきます。ありがとうございました。

スライドショー 「パリ日」50年の歩みを振り返る

1973年から2023年までの出来事をまとめたスライドショーを鑑賞しました。時間の関係で選ばれたスライドの数は限られていましたが、本校50年の歩みを振り返りってみると改めて50年の間にはその時代ごとに、様々な体験や思い出がたくさん詰まっていることを感じました。心地よい BGM と、興味深い演出が工夫された画像で思わず時を忘れた感じがしました。

【左から トロカデロ校舎前景・入学式当日・シュレーヌ校舎・サンカンタン校舎】

校歌合唱版 記念式典で初演

本校の校歌はこれまで斉唱のものだけでしたが、50周年を機に本校卒業生で音楽家の峰岸彩音様に3部合唱版に編曲していただきました。今回の記念式典が合唱版の初演となりました。「流れ豊かにセーヌ川……」で始まる本校の校歌ですが、開校当時はトロカデロ地区にあったため実際にセーヌ川が近くに流れていました。サンカンタン校舎に移った今は、スクールバス通学の人しか日々セーヌ川を目にすることはできません。しかし、セーヌの流れはこの先も絶えず続いていきます。教職員も子供たちと一緒に、「パリ日」がセーヌ川のように、この先もさらに発展しながら、ずっと続いていくことを願いながら歌いました。なお、当日の歌は以下アクセスして聴くことができます。

https://www.youtube.com/watch?v=hfCzGBoHDkY

狂言師 小笠原弘晃様による小舞披露 「菊の舞」

記念式典の最後は、狂言師小笠原弘晃様に、祝いの席で舞われる、小舞「菊の舞」を披露していただきました。凛とした登場の様子からガラリと変わって、狂言の歴史や面白さをユーモアを交え語っていただきました。解説も日本語とフランス語の両方で行っていただき、フランス人のお客様も身を乗り出して聞き入っていました。狂言の中で笑う場面の稽古も、会場一体となって行いました。日本の伝統芸能に直接触れる機会が少ない中、改めて日本の伝統文化のすばらしさを実感できた時間となりました。

レセプション 「生徒のアイディアを活かした」日本庭園のお披露目

式典終了後、中庭を望む低学年ホールでレセプションが行われました。本校理事で50周年記念事業担当の平塚潤一様から、理事会を代表してご挨拶をいただいた後、本校理事で在仏日本人会会長の片川喜代治様に乾杯のご発声をしていただきました。懇談の際に、本校の中庭日本庭園化にあたり、昨年度中学部に庭園についての講義をしていただいた、造園家の遠藤浩子様から今回の造園に関するコンセプトなどのお話をいただきました。秋の日差しの下、短い時間でしたが気持ちの良い時を過ごせました。

開校50周年記念プレート除幕 ～多くのご寄付をありがとうございました～

今回の記念事業にあたり、多くの法人・個人様からご寄付をいただきありがとうございました。すべての寄付者のお名前は、記念式典の次第裏面にご紹介させていただきました。また、規定額以上のご寄付をいただいた法人様、個人様は、記念プレートにお名前を刻ませていただきました。

式典後のレセプション開始に先立ち、事務室横に掲げられた「パリ日本人学校開校50周年記念事業寄付者御芳名」プレートの除幕が行われました。理事会を代表して、本校理事長の西澤宏章様、副理事長の平塚潤一様に除幕していただきました。

なお、プレートはいつでもご覧になれます。ご来校の際に、ぜひご覧いただければと思います。